

社会を明るくする運動福井県推進委員会委員長賞

「アロハ当たり前運動」で未来をひらく

大虫小学校五年 中 嶋 奏 太

「当・た・り・ま・えー！へー！」

ぼくの学校では、こんな声がよく聞こえてくる。

(ラップ調のリズムで)

あいさつ先取り当たり前

ろう下を歩くの当たり前

話は目で聞く当たり前

当たり前・当たり前

当・た・り・ま・えー！へー！

これは、児童会が中心になって始めた「アロハ当たり前運動」だ。アロハは、あいさつ、ろう下、話の三つの頭文字を合わせたものだ。ラップのようなリズムで歌うことで、低学年も楽しく覚えられ、すぐに学校中に広がっていった。

ぼくも昨年は児童会で活動していた。その時はろう下でかん板を持って「ろう下は歩こう」とよびかけたり、走った人の人数を記録したりしていた。しかし、「走ったらだめだよ」と言っても、す直に聞いてくれる子ばかりではなく、「走ってないし」とムツと言いつ返されたり、からかわれたり。児童会はみんなのためにがんばっているのに、注意する方もされる方もくらい気持ちですこしていた。

ところが今年児童会が始めた「アロハ当たり前運動」で、学校のふ

元気に一日を始める。二つ目は「ロードのルールを守るの当たり前」交通ルールを守って命を大切に。三つ目は「話をするの当たり前」祖父や祖母に話しかけ、家族や地域の人と仲良くする。この夏休みアロハのおかげで、学校だけでなく、家庭や地域でも「当たり前」を意識できるようになった。

ぼくは、この運動を通して大切なことに気付いた。それは「当たり前」を守るより、一緒に楽しくする方が広がりやすくこつ果的だということだ。無理やり言うことを聞かせ、取りしまったりするやり方では、みんなの心は動かないし、行動も一時的にしか変わらない。明るく、前向きな声かけは、自分も相手も気持ちよく行動できる。そしてそれが習かんになると、自然と人を思いやる行動につながっていく。

これからの社会を明るくするのは、ぼくたち子どもです。自分たちで決めたルールを「当たり前」として守り、明るい子ども時代を過ごせば、大人になってからも人をきずついたり、悪いことをしたりしないと思う。

このアロハ当たり前運動をもっと多くの人に知ってほしい。ぼくの学校から地域へ、地域から全国へ。みんなで声を合わせて、「当たり前！へー！」と言える社会に。それがぼくが考える明るい未来への一歩だ。

んい気もぼくの気持ちも明るくなった。例えばろう下を走っている子に「ろう下を歩くの当たり前！」と声をかけると、笑顔で歩き出す。注意されていやな気持ちになる子もほとんどいない。同じことを伝えても、言い方やふんい気でこんなにも受け取り方がちがうのかとおどろいた。

この運動のおかげで、ろう下を走る低学年に進んで声をかける高学年がふえた。集団登校の時も、地いきの人たちに自分からあいさつする子がふえ、旗ふり当番をしている父も

「最近みんな大きな声でおはよう！って言うてくれるようになったな。」

と、うれしそうだ。

また、「話は目で聞く」ことも大きな変化だ。先生の話も友達の話も、目を見てうなずきながら聞くと、相手がうれしい気持ちになる。逆に反応がないと一方的に話を聞かされている感じになって話も頭に入っていない。じゅ業中に友達の方を見て話すと、会話がつながり、勉強も楽しくなる。アロハ当たり前運動は、みんなが安心してすごせる社会をつくるルールだ。

夏休み前には「夏休みバージョンのアロハ当たり前運動」が発表された。一つ目は「朝早起きするの当たり前」ラジオ体操そうに参加して

